

共同利用型信金補完システム提供開始

～共同利用によりシステム投資を大幅に削減～

現在、信用金庫ではしんきん共同センターの勘定系システムを補完する情報系システムとして、バンダー各社の補完系システムを導入され、経営情報や営業情報などとの連動を図りながら、金庫独自の業務を展開されていることと思われます。

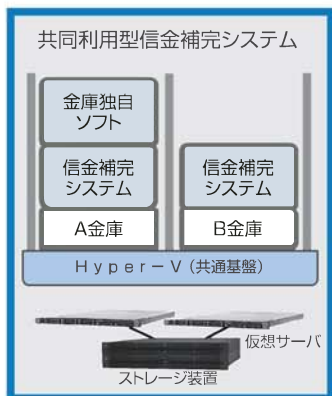
しかし、信用金庫が個別に補完系システムを導入された場合、機器の維持管理は勿論のこと、制度改正・共同センターのシステム変更など突発的なイベントについては、各信用金庫で対応する必要があります。

これら信用金庫の負担を軽減するため、当社はデータセンターに富士通㈱の補完系システム「SK-Force」をベースにした共通基盤システムを構築し、これまで信用金庫が個別に導入していた補完系システムを仮想化技術で集約することにより、ハード資産の維持管理およびソフトウェア更改等に係る費用の低減を実現する「共同利用型信金補完システム」として、27年2月よりサービス提供を開始いたしました。

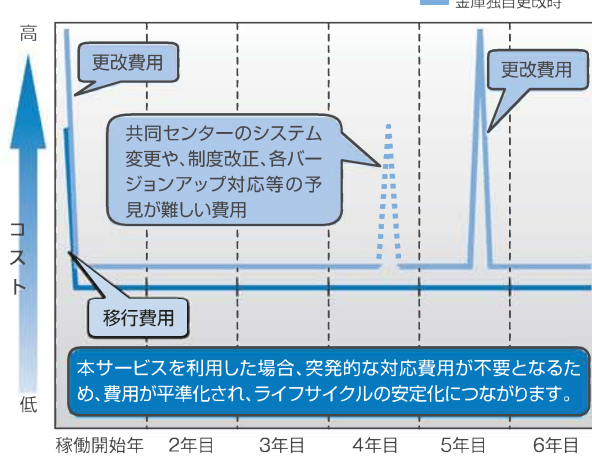
システム概要

本システムはデータセンターに構築した共通基盤に仮想化技術で金庫毎の補完システム環境をご用意し、金庫の独自性を損なうことなく共同利用型のシステムとしてご利用いただけます。

また、現在ご利用の金庫独自ソフトについても、本環境に移行し、稼働させることができます。



システム費用の発生サイクル



ご利用のメリット

利便性の高い業務機能を標準提供

利便性の高い業務を標準で提供し、今後も金庫要望により機能追加を予定しております。

柔軟なシステム対応

共同センターの制度変更や、新規サービスへ柔軟に対応し、業務継続性を保持したシステムをご提供いたします。

月額料金によるコスト平準化

月額固定金額にてご利用いただけますので、システム投資の平準化が図れます。

事務の自動化・効率化を実現

金バッチシステム連携によりオペレーションの自動化、簡易化を実現し、本部・営業店の事務負担を軽減できます。

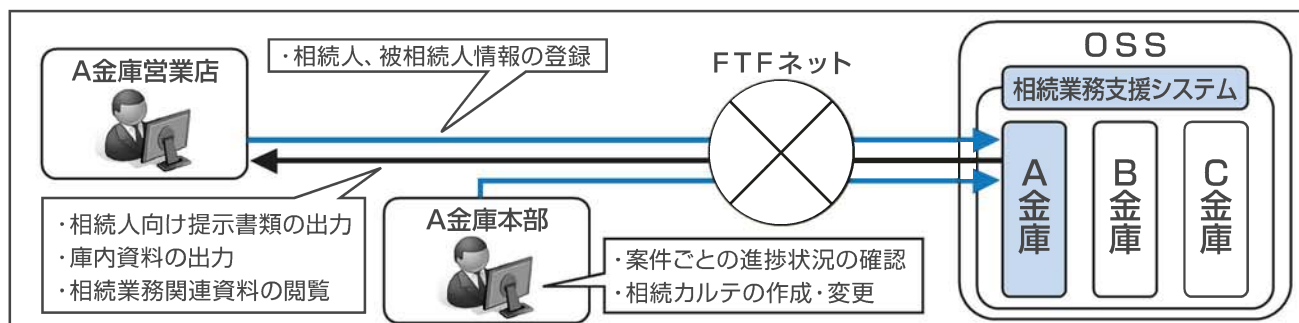
【担当】業務推進部・営業課

推奨システム・サービスのご紹介

現在、多くの信用金庫から問合せをいただいている注目度の高いシステム・サービスをご紹介します。

共同利用型相続業務支援システム

当社では信用金庫にサーバを設置するオンプレミス型に加えて、FTFネット経由で利用できる月額料金制の共同利用型相続業務支援システムを提供しました。



提供価格：月額98,000円（1金庫あたり）

初期費用なし、店舗数に関わらず金庫単位での低価格を実現いたしました!



出資業務支援システム

本システムは、出資業務の効率化・平準化を目指したシステムですが、除名に関する規制緩和や出資証券パーパス化への動きが広がり始めていることもあり、業務の効率化・平準化のみならずシステムでの厳格な管理を求める信用金庫も増加しております。

現在、2金庫が導入済みであり、数金庫に検討いただいております。

特権ID管理システム

サーバメンテナンス時等に利用する特別な権限を持つ「特権ID」を厳格に管理することで不正操作や情報漏えい等の防止・抑制に繋がるシステムです。

既に2金庫が導入を決定しているほか、数金庫が具体的な検討に入られている状況です。

特権IDとは、Windowsの「administrator」、UNIXやLinuxの「root」などの管理者権限のことです



共同利用型デジタルサイネージサービス

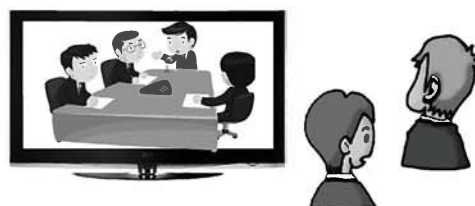
デジタルサイネージは、金利表示ボードに代わる広告媒体として、近年、各業界に急速に普及しており、金融業界においても今後ますますの利用拡大が予想されます。

当社では、共同利用方式による価格の低廉化を図りながらも、信用金庫ごとの独立した画面設定を確保し、WEB経由の簡単な操作で表示コンテンツのアップロードや、表示スケジュールの管理が可能なSaaS型のサービスを提供しております。

テレビ・WEB会議システム

金庫職員の移動時間、移動コストの削減のみならず営業店窓口業務の遠隔支援や災害時のコミュニケーションツールとしても利用できるシステムです。

当社では、接続拠点数やコスト、導入形態に応じてお選びいただけるよう、テレビ会議システムとWEB会議システムの2つのシステムを提供しております。



【担当】業務推進部・営業課

「しんきん為替集中サービス」の自動発信機能について

しんきん為替集中サービスの主な特徴としては、自動発信機能やダブルエントリー方式の採用など、信用金庫本部の事務負担軽減ならびに入力精度の大幅な改善を図っております。

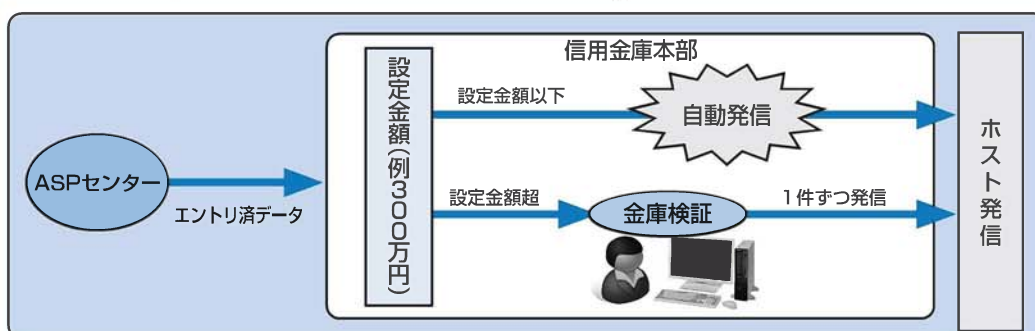
以下に自動発信機能の信用金庫本部のメリットについてご紹介します。

1. 自動発信機能とは

- ・振込金額の発信限度額を設定することで、設定金額以下の振込は金庫検証を経由せず直接ホストに発信できる機能です。

2. 自動発信機能のメリット

- ・金庫検証を経由しないため、検証にかかる事務負担が大幅に軽減されます。
- ・金庫検証に必要な端末台数を減らすことができ、スペースを有効に活用できます。
- ・金庫検証にかかる件数の減少により対応人員を削減できます。



【担当】業務サービス部・為替集中サービス課

OSSサービス業務ご利用の声

— 凍結口座等検索システム —

観音寺信用金庫：事務部の皆さんのお話

■ご利用の目的とその経緯をお聞かせ下さい。

当庫では、反社会的勢力、ブラック情報、疑わしい取引等については、本部の各部署で管理していたため、ファイルが別々になっており、照会時は複数のファイル検索が必要でかなり手間がかかっていました。照会作業の効率化を検討していたところ、OSSの地区別サービス業務懇談会で本システムの説明があり、照会作業が簡単になると判断し、導入を決定いたしました。

■ご利用にあたって最も懸念された点は？

今までExcel等で管理していた情報をスムーズに移行できるかどうか懸念しておりましたが、このシステムには一括取込機能が付いているので、指定されたフォーマットに変換するだけで簡単に移行することができました。

■ご利用後のご感想をお聞かせ下さい。

本システムを利用することにより、別々に管理していた各情報の一元管理ができ、一回の操作で全情報に対する検索が可能となったため、照会に要する時間が大幅に短縮できました。また、警察庁から還元される凍結口座や不正送金先の情報を金庫で登録・更新する必要がなくなり、担当部署の事務負担も軽減できました。

今後もこのシステムのように、低価格で利用し易いシステムの提供をお願いします。

【担当】業務推進部・業務課

事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

昨年度のわが国の経済は、アベノミクス効果による円安と株価上昇から、緩やかな回復基調が続いたが、昨年4月の消費増税に伴う駆け込み需要の反動減から、個人消費と設備投資が落ち込み、国内総生産(GDP)はマイナス成長となるなど景気の停滞感が強く、特に地域経済は高齢化や人口減少、空洞化といった構造的な課題を抱え、信用金庫の主要な取引先である中小・零細企業については、円安に伴う原材料の高騰やコスト増の影響により、未だ業況は厳しい状況でありました。

このような状況のなか、当社は、昨年7月に創立20周年という大きな節目を迎えることができましたことは、これも偏にご利用金庫ならびに関係各位のご支援、お引き立ての賜物と感謝いたしますとともに、20周年という新たな出発の年に「原点回帰」のこころに倣い、「信用金庫のより近いところに“Face to Face”をもって、コミュニケーションを図り、ニーズを聞きながら、サービスを低コストでタイムリーに提供していく」ことを使命として再認識し、役員社員一丸となって信用金庫のサービス支援に取り組んでまいりました。

26年度は、新たな業務として、26年6月にテレビ・WEB会議システム、7月にデータセンターを活用したハウジングサービス、10月に特権ID管理システム、12月にSISと共同開発したしんきん為替集中サービス(全国版)、27年2月に共同利用型の信金補完システム(SK-Force)を提供し、既存業務としては、26年10月に自動機監視における注意コード受付・設定サービスの24時間対応、11月には手形小切手発行システムを更改するとともに、情報交換や金庫個別

ニーズを把握すべく地区別のサービス業務懇談会を開催しました。

また、信用金庫が委託先管理強化を求められていることから、その対応の一環として、当社のリスク管理態勢について地区合同による金庫委託先監査や内部監査による情報セキュリティの再点検を実施するとともに、第三者機関による客観的評価として、新日本監査法人によるシステム外部監査を受検いたしました。

以上の結果、26年度の年間売上高は16億46百万円、経常利益は98百万円、当期純利益は44百万円となりました。

当社の今後の取り組むべき課題は、昨年度策定した中長期の経営計画を本格スタートさせ、「しんきん為替集中サービス(全国版)への円滑な移行、自振交換システムの全面更改、大阪サテライトハードレスに伴うマシン更改や神戸分室の堂島移転」等のイベントについて、しんきん共同センターや各関係機関と連携のもと、全力を挙げて取り組んでまいりますとともに、信用金庫にご満足いただける信頼性、安全性のより高いサービスを提供すべく、ご期待に応えてまいりる所存でございます。

今後とも、引き続き一層のご支援とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

代表取締役社長 瀧川 好美

「第22回定時株主総会」のご報告

当社では、6月29日(月)に、ホテルグランヴィア大阪におきまして、「第22回定時株主総会」を開催し、第21期事業報告を行った後、以下の決議事項についてご審議賜り、全議案とも満場一致で承認可決されました。

本総会におきましては、取締役の任期満了に伴う改選が行われ、引き続き開催されました第97回取締役会にて役付取締役が決定し、代表取締役社長に香山正人が就任するとともに、以下の役員名簿のとおり就任いたしましたので併せてご報告申し上げます。

【報告事項】

第21期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業報告の件

【決議事項】

- 第1号議案 平成27年3月31日現在 貸借対照表、第21期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)損益計算書、附属明細書、株主資本等変動計算書および個別注記表 承認の件
- 第2号議案 剰余金の配当および処分の件
- 第3号議案 取締役の任期満了に伴う次期取締役選任の件
- 第4号議案 退任役員に対する退職慰労金贈呈の件

■役員名簿

平成27年6月29日 現在

役名	氏名	備考
代表取締役社長	香山正人(きのくに信用金庫会長)	
代表取締役常務	中村憲男	
常勤取締役	別部元昭	新任
取締役	今村良成(砺波信用金庫理事長)	新任
〃	松浦俊和(鶴来信用金庫理事長)	新任
〃	森下充(小浜信用金庫理事長)	
〃	大西和彦(湖東信用金庫会長)	
〃	小林泰(永和信用金庫理事長)	
〃	中進(北おおさか信用金庫会長兼理事長)	
〃	瀧川好美(淡路信用金庫会長)	
〃	佐竹義治(阿南信用金庫理事長)	
〃	松田基(幡多信用金庫理事長)	
監査役	片桐陽(大阪商工信用金庫会長)	
〃	桑田純一郎(但陽信用金庫理事長)	

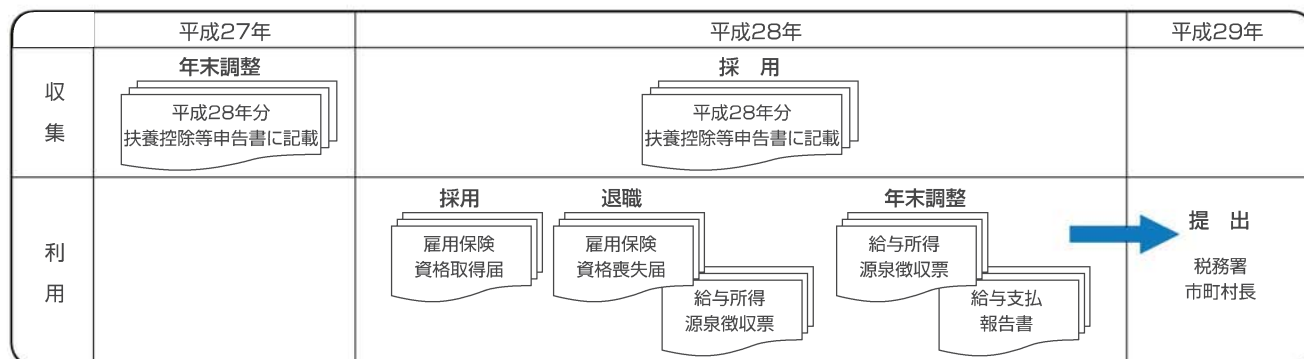
以上14名

(注) 取締役の任期は平成29年6月の定時株主総会の終結時まで、また監査役の任期は平成29年6月の定時株主総会の終結時までとなっております。

マイナンバー制度の実施に向けた当社の取り組み

既にご存じのとおり、平成27年10月より個人番号(マイナンバー)が通知され、平成28年1月より利用が実施されます。当社では、マイナンバー制度の実施に向け、プロジェクトを立ち上げ、以下の観点から各種対応に取り組んでおります。

1. 業務プロセスの見直し：影響を受ける業務および法定調書等の洗出し、業務フローの見直し
2. 安全管理措置の対応：管理整備、人的・物理的・技術的安全管理措置の対応
3. 規程類の見直し：基本方針、取扱規程の策定および規程類の見直し
4. システム開発、改修：人事・給与システム等への対応
5. 従業員への周知徹底：社内研修、勉強会の実施
6. 従業員へのマイナンバー収集時期(概要)



システム外部監査受検の報告

当社では、信用金庫の業務委託先として安全管理措置の強化を図るべく、本年2月4日から2月6日にかけて、新日本有限責任監査法人による3回目となるシステム外部監査を受検いたしました。

監査結果としては、指摘事項はありませんでしたが、今後も引き続き、第三者機関による定期的な外部監査を受検し、更なるシステムリスク管理態勢の維持、改善を図ってまいります。

【主な監査項目】

- ◇情報セキュリティ管理態勢(物理/論理アクセス管理等)
- ◇システム内部監査態勢
- ◇不測の事態への対応(障害対応、防犯対策、コンティンジェンシープラン等)
- ◇外部委託先管理

今日の名言

うまくいかなくても、やったことは全部、将来の自分のプラスになります。

孫 正義 (ソフトバンク 社長)

編集後記

長かった梅雨も終わりに近づき、日々の暑さが夏の到来を感じさせるようになってきました。

夏になると毎年話題になる熱中症。対策としては小まめな水分補給と休憩をとることと、さほど難しいことでは無いはずなのですが、毎年多くの方が病院に担ぎ込まれるニュースが後を絶ちません。

仕事に遊びとついつい頑張りすぎて、生活リズムが崩れやすい季節だからこそ、バランスのとれた食事、睡眠を充分にとって規則正しい生活を送り、体調維持を心がけて行きたいと思います。